

口は健康のもと Vol.64

義歯に早く慣れよう

多くの方は、自分の歯でうまく噛めなくなってから、義歯を使えばいいと考えているのではないのでしょうか。しかし、義歯に慣れることはそんなに容易ではなく、なじめずに困っている人が多いのも事実です。

義歯に慣れるとはどういうことなのでしょうか。

噛んでいるという感覚は、歯の根の周りからの情報が、神経を伝わって大脳皮質に到達して生じます。脳ではこの感覚や舌・頬などからの感覚を利用し、顎や舌の運動を制御しているのです。

歯が抜けると、その歯につながる神経と一緒に、その神経が通っている脳の部分も死んでしまうことが最近わかってきました。その結果、残された歯だけで噛めるように脳が徐々に改造されていきます。

もし、多数の歯が抜けたまま長い期間放っておくと、脳は大幅に改造されてしまいます。このような人では義歯を入れても慣れるのが大変です。我慢して義歯を使いながら脳のさらなる改造を待つほかありません。

義歯に早く慣れるには、1本でも歯が抜けたら、すぐにその部分に義歯を入れ、脳の改造を最小限に抑えることが大切です。



奥羽大学歯学部 口腔生理学
准教授 宗形芳英